

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
○ 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念、「個性の尊重し、楽しく健康な毎日を送れる暮らしをサポートします」を重視した、住み慣れた地域での安全・安心な生活を支援しています。	○	近所の幼稚園や保育所、学校などへの交流をもち、事業所と地域の関係性を強化していく。
○ 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	カンファレンス会議、朝の申し送り等で、理念を掘り下げて、職員全員で話し合い、意見交流をはかり、出来ることから取り組んで、援助している。		
○ 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所の理念やホームの特徴を伝えている。運営委員会の実施、家族会は設ける予定。		
2. 地域との支えあい			
○ 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や買い物に定期的に出掛け、近隣の住民と挨拶を交わしたり、交流している。	○	近所の住民にもっとグループホームに遊びに来てもらえるように、努めていきたい。
○ 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭り、行事等に参加し、交流している。ふれあい祭りに参加するなどして、取り組んでいる。	○	近隣の保育園や幼稚園、養護学校などと交流する。
○ 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	特に行っていない。	○	地域との交流を深めながら、地域の高齢者介護に役立つ情報の交流をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上、職員のスキルアップをめざす。 改善する点を考え、良い方法で改善していく。		
8	○ 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、上げられた検討事項を話し合い、サービス向上に努めている。		
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活保護の方を受け入れているため、西区役所の方と連絡を取り合っている。		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員用のガイドブックを配布して分かる様にしている。	○	職員に説明、アドバイスするようにする。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	朝の申し送り、全体会議等で虐待行為にならないか、確認し合っている。 参考資料等、職員に供覧し勉強している。	○	勉強会やミーティングを実施し、勉強する機会を作る。
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとって説明している。 医療連携体制などには、説明し同意を得るようにしている。	○	時々、家族の家を訪問し、不安、疑問点などゆっくり時間をとって、聞いてみるのも必要では。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者本位の運営を心がけているが、現在利用者からの意見等はない。	○	家族との話し合いや、現在の状況報告、連絡はしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的に新聞を発行して、暮らしぶりを報告している。また、行事の写真を来訪時に見てもらっている。来訪時に、随時、利用者の状況等をお知らせしている。金銭面に関しては、出納表に記入し送付している。管理は職員が行っている。	○	健康状態は往診など行っているため、変化がある時は結果を家族に報告する。定期的に通信という形で、手紙を書いて送付する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの苦情は、何でも言って頂けるように留意している。意見箱を設けて、手紙を入れてもらうなどして頂ける対応している。今のところ、苦情はない。	○	家族会などで、家族同士で話し合う時間を作る。苦情対応マニュアル、苦情対応計画書を作っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングで職員からの意見・要望を聞いて。(月、1回)	○	個別面談を行っていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	本人のニーズや生活時間に合わせた、体制を取り入れるようにしている。緊急時、応援に来てくれる人を、緊急連絡網を作り対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員のコミュニケーション、利用者との信頼関係を築くためにも、フロア移動は現在のところしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じ て育成するための計画をたて、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きな がらトレーニングしていくことを進めてい る。	事業所外の研修に多くの職員が受講できるようにしている。研修の資料 や内容を職員が供覧できるようにしている。研修内容を申し送り等で報告 している。	○	医療連携の医師による、勉強会を行う。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同 業者と交流する機会を持ち、ネットワー ク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じ て、サービスの質を向上させていく取り 組みをしている。	札幌市内、石狩市等のグループホーム、西区内のグループホームへの 訪問し意見交換や管理者間のネットワーク作り、学習会、等行っている。	○	介護職員が、沢山他の施設等を訪問する機会、交流会や、学習会を受 講出来る様にしたい。
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを 軽減するための工夫や環境づくりに取り 組んでいる。	親睦会等の場を作り、職員との交流をしている。 気分転換の出来る休憩所を確保している。	○	個人面談等をもっと行っていきたい。
22	○ 向上心をもって働き続けるための取り 組み 運営者は、管理者や職員個々の努力 や実績、勤務状況を把握し、各自が向上 心をもって働けるように努めている。	資格獲得の支援をしている。 研修会への参加の場を作っている。また、職員の全体会議、カンファレン スでの話し合いの場を設けている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っ ていること、不安なこと、求めていること 等を本人自身からよく聴く機会をつくり、 受け止める努力をしている。	本人に会って、心身の状態や、本人の思いを受け入れて、信頼関係を作 るようにしている。		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が 困っていること、不安なこと、求めている こと等をよく聴く機会をつくり、受け止める 努力をしている。	家族等の話を良く聞いて現在の状況や、これからのニーズは何かを把握 して相談や話し合いの場を設けて受け止めるようにコミュニケーションを とっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族等の話を良く聞いて現在の状況や問題点を確認して、これからのニーズは何かを把握して相談や話し合いを行ってサービスに努めている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームを、本人、家族等に見学して頂き、納得された後に入居して頂く、または、体験入居等のなれるまでの期間を設けている。家族等にいつでも来訪して頂けるように努めている。家族等ともよくコミュニケーションを取って、本人、家族等に不安のないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の、思いや、根本にある苦しみ、不安、喜び等知ることに努め、共に支えあえる関係作りに努めている。	○	レクリエーション、毎日の運動、散歩等するなかで、支援する側される側という意識をもたず、お互いが共同して、穏やかな生活が出来るように努めている。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていく為の、協力関係が築けることが多くなってきている。(本人の苦悩を知り、家族と共に泣くこともある。)	○	もっと受け入れていける体制をとりたい。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ホームの行事や、レクリエーションに家族等を招き、一緒に楽しみながら、より良い関係の構築に努め継続をしていくように努めている。	○	やまのてだよりを発行しホームと家族等との情報連絡等をしている。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の住人や、ボランティアさん、体操の先生等に来ていただき環境づくりに努めている。また地域のお祭り等に出掛けている。	○	地域の保育園や、養護学校、知人、友人等のところへ行けるように対応を考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の時間や、誕生会等全員が揃う時に、利用者同士、または職員と、会話をしている。レクリエーションや、行事、散歩等でかけるときでも、利用者同士が会話できるように職員が調整し配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了してもホームへ遊びに来ていただけるようにしている。また時々家族へ連絡し様子を伺っている。また何かあったときには、相談対応できますことを、家族には伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、何が食べたいとか、食べたい物の希望を聞いたり、何がしたいとか聞いたり、意思疎通が困難なときは、家族に色々聞いたりしながら、本人へ声をかけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族等へどのような生活を送っていたか、入居時に聞いていなかった事について、家族等に迷惑にならないように聴いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活や、心理面で、出来ること、出来ないこと、楽しいこと、不快なこと、悩み、不安等を把握して、生活リズムに、くることが生じないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○ケアプラン作成による利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員全員でモニタリングをし、カンファレンスを行い生活援助計画に記録し、介護計画(ケアプラン)へ反映できるようにしている。	○	現在のところは書式等や、記入の仕方に問題があるため改善をしていく。また、分かりやすい介護計画にしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	カンファレンスで、状況の変化、変化についての経過や、今後の援助計画を話し合い、見直しを行って、評価をしている。	○	分かりやすいケアプランにしていく。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	バイタル測定、食事、水分量、入浴、排便、睡眠等は健康管理表、生活リズム表等で管理している。生活の様子、エピソード、体調の変化、気付き等はケース記録に記載している。	○	ケース記録は記載の仕方に改良が必要と話し合っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診、通院や送迎、買い物支援等、本人家族等に必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者と地域との交流が接点と考え周辺施設等へ働きかけている。避難訓練時には消防署への協力、SOSネットワーク等依頼している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	連携医療機関との往診、体調管理、訪問歯科、訪問理美容室等を利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは運営推進会議で関係をとっている。利用者家族には成年後見人制度を利用している方も居るので参考になると考えている。	○	必要な利用者、家族等には協力していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制を構築し、24時間の連携協力の体制も整えている。また、受診、通院等は近隣の病院と提携協力体制を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近隣に有る、耕仁会 太田病院とは、好意にいただいていたいて、状況に応じた的確な認知症についての受診、相談が出来る。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	居慮連携体制のなかで周1回の看護師を確保している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療提携協力体制、体制の無い病院等でも、家族と話し合いをして、医療機関と連携の対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化、終末期に対しての方針を作成している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化、終末期に対しての方針を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○ 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の施設に移る際には、移り先と情報の提供と、連携をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の尊厳を重視した対応を徹底しているが、毎日のミーティング、カンファレンス、全体会議等で再確認している。	○	プライバシーの秘密保持、個人情報の管理を徹底している。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員の押し付けにならないように注意している。また、複数の選択ができるように、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の生活リズムに合ったケアを心がけ、買い物や、散歩も本人の意思を尊重し、重視している。	○	利用者の、行きたい所に行けるように、時間を作っている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の身だしなみについては、自分で服を選び着ていただき、出来ない方は服を出して是でいいのか確認し、着ていただくように声をかけ、促しをして着替え等をしている。また、理美容室は本人の希望に添う対応をしている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	職員と利用者が、同じテーブルで楽しく食事できる様な雰囲気を作っている。片付けもなるべく一緒にするようにしている。またメニューも季節のものを取り入れ、自然食品等を使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者、一人ひとりの嗜好物を理解して、楽しめる様に把握している。	○	職員全員が、把握できるようにしていく。
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導の必要な人には、時間を見て、声掛け誘導をして自分で排泄することを勧めている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	なるべく、本人の希望にあわせた、入浴をしている。一人ひとりの習慣に配慮している。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜が逆転にならない様に、日中の活動を促し生活のリズムを整えるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の特異性を考慮し、仕事を手伝って頂いている。また、感謝の言葉を忘れないようにしている。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人に小額を手にとってもらっている。	○	買い物するとき等は、お金を渡し、本人に支払ってもらうようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に、散歩や買い物、ドライブ等に出掛けている。	○	外食や、喫茶店、すし屋、ラーメン屋等に出掛けることも検討している。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみよう普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	今年の行事計画に、温泉へ行く計画を組んでいる。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由にしていて、本人が掛けられない利用者には、職員が取り次いでいる。	○	年賀状や、暑中見舞い等を、出せるようにして行く。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者と家族がゆっくり過ごせるように、居心地の良い、環境づくりをしている。	○	いつも暖かく、家族や訪問者を迎えたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや、カンファレンス、職員全体会議等で拘束のないケアを振り返り、拘束に当たらないか、気付かない拘束を行っていないか話し合っている。	○	苦情対応マニュアルや、苦情対応計画書を整備する。
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、鍵をかけていないので、利用者が外へ出掛けるときは、側に付き添い対応している。安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○ 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、利用者と同じ空間で仕事をしていて、利用者の安全確認が出来るように、さりげなく見守りをしている。		
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、危険な洗剤等、劇薬、は保管専用の棚へ入れて保管、施錠できるようにしている。包丁や、アイスピック等の危険を伴うものについては、高い所や、施錠のできる場所に保管している。		
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予測される危険性を検討し、事故を未然に防止する為の工夫を常に取り組みをしている。 ヒヤリハット、事故報告書を作成し今後の予防、対策の検討している。		
70	○ 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを活用している。医療連携体制のなかで、医療機関と常に連絡を取れる、24時間の連携体制を整えている。		
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練マニュアルを作成している。現在は年1回行っているが、年2回にして行く。	○	消防計画書の整備をする。
72	○ リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に、利用契約書、重要事項説明書等を家族等に説明している。日常家族等とも懇談等で話し合いをしている。また、施錠のしない、自由な暮らしの大切さを、常に家族と話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握し、少し変化が見られた場合は、バイタルチェック、状況を正確に、把握、記録して、状況により、連携医療機関へ連絡を取り、報告対応している。	○	利用者のちょっとした変化も朝、夕の申し送り等で話し合っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の、服薬ファイルの作成や、処方箋の整理をして、職員が服薬内容を把握できるようにしている。 連携医療機関以外の病院に通院し薬の処方があったときは、連携医療機関に報告している。 誤薬の無いように一人ひとり管理している。	○	利用者の薬の処方が変わった場合は、申し送り等で話し合っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食材の工夫や、運動をすることで、自然な排便が出来るように取り組んでいる。決まった時間にトイレへ行く習慣を促している。	○	水分の摂取量等の管理を行い便秘の早期解決や、軟便の対策も講じている。提携医療機関へ連絡し医師の指示のもと対策を講じている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの声掛けを行いその人の状況に応じて、見守りや、介助を行っている。	○	訪問歯科医とも連携を取り、相談している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養面は、献立を栄養士に依頼してバランスをチェックしている。また、専門誌を活用して、1日のカロリーにも気をつけている。水分摂取量は毎日の記録でチェックしている。	○	食べ物によっては、一人ひとり食べやすいように工夫して提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び家族の同意を得てインフルエンザの予防接種を行っている。職員全員の予防接種も実施している。ノロウイルスの対策として、まな板、布巾、お玉や包丁等は、消毒や、熱湯消毒を実施している。利用者、職員全員、外出、帰宅時にはうがい、手洗いを実施している。	○	家族等にも協力を依頼している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は信頼のおける業者へ依頼し鮮度の必要な食材は鮮魚店等に依頼している。冷凍庫も各階で用意し管理している。 調理用具は、漂白や、熱湯消毒等をしている。	○	中国製品の冷凍食材は使用しないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○ 印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、プランターや、植物、置物のふくろうを飾り福が来るように明るい雰囲気を、かもし出している。	
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で感じるような、ご飯の炊ける匂い、茶碗を洗う音、等生活の感じられる環境に成っている。共用の空間では、特にトイレの臭いが無いように、バット、リハパン等からの臭いを防止する為、新聞紙や、ビニール袋を活用し臭いが出ないようにしている。	
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	所々に、植木を配置して緑を取り入れ、絵画も配置していて殺風景に成らない様にしている。 デイルームは窓が広く明るさも心地の良い空間となっている。	○ 利用者同士がくつろげるスペースを作る。
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、日用品が居室にあり、心地よく、安心の出来るように配慮している。	○ 居室のベットからの転落防止に配慮している。
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	個室の換気や、湿度の調整にぬれタオルや、加湿器を使用して、空気の乾燥防止に工夫している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺を、浴室、トイレ、廊下等に配置して安全の確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の状況にあわせた環境づくりに配慮し、失敗しても、本人が不安にならないように、職員全員声掛けをして、配慮している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花をプランターに植えたり、家庭菜園での、野菜作りをして日々観察でき楽しめるようにしている。屋上も活用できる為昨年は焼肉パーティーを実施している。また、地下室も整備しているので、天候の悪い日や、冬季間の活用を検討している。	○	夏季の散歩時に家庭菜園の水撒きや、成長の観察、収穫を楽しんでいる。

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)